



KALS 大学院入試対策講座 受講生の皆様

100%合格に向けて！チューターからメッセージ

2008 チュートリアル通信

【心理系大学院受験対策⑨】

河合塾KALSの大学院入試対策講座（心理系）では、チューター制度を導入しています。チューターには、当校の合格者OBを中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイダンス「サクセスチュートリアル」や個別相談などを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、チューターから心理系受講生の皆さんへのメッセージです。今後の受験対策のご参考にしてください！

1. イベントレポート～「臨床心理フェア2008」

（以下はKALS HPにもUPしましたイベントレポートからの抜粋です。）

今年も猛暑の中「臨床心理フェア」への多数のご来場まことにありがとうございました。

東京会場 272名 大阪会場 115名 計 397名の方がご来場、東京会場 34大学 大阪会場 19大学 のべ53大学にご参画いただきました。会場が混雑しご迷惑をおかけした場面もありましたが、受験生と大学院との良い“出会いの場”がご提供できたのではないかと思います。

ご来場いただいた皆様、ご協力いただきました大学関係者の皆様に、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

東京会場 7月21日（月祝）11:00～17:00 @KALS 新宿校

大阪会場 7月20日（日）11:00～17:30 @KALS 大阪校

【東京会場】

『臨床心理士を目指す人へ～臨床心理士に求められるもの』

日本臨床心理士資格認定協会常任理事／広島国際大学教授 上里一郎 氏

『心理系大学院 科目別攻略法～心理学&英語』河合塾KALS 山本隆一郎講師

『心理系大学院入試 過去問分析 関東地区の大学院を中心に』河合塾KALS 坂井剛 講師

【大阪会場】

『臨床心理士を目指す人へ～臨床心理士に求められるもの』

日本臨床心理士資格認定協会専務理事 大塚義孝 氏

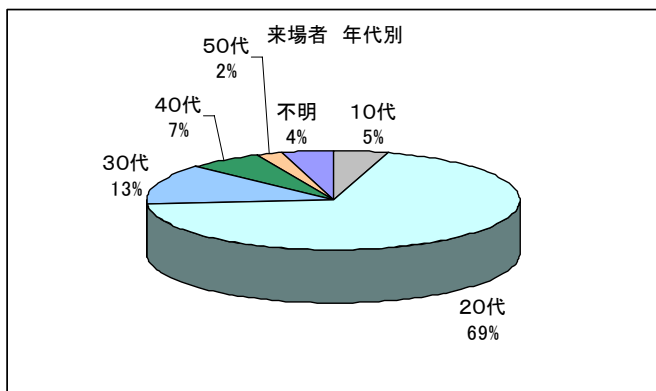
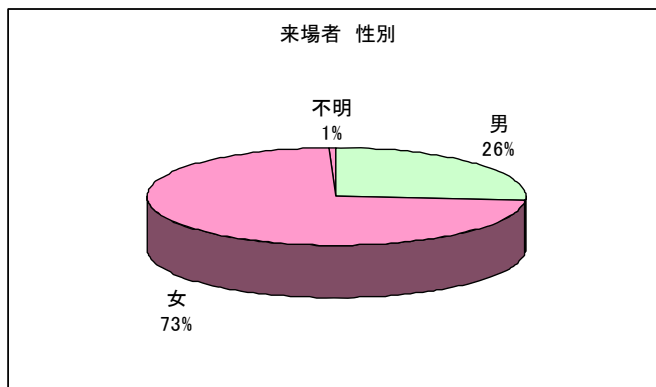
『心理系大学院 科目別攻略法 心理学&英語』河合塾KALS 石上浩美 講師

『心理系大学院入試 過去問分析 関西地区の特徴と出題傾向』河合塾KALS 亀田満 講師

<会場別参加大学>

東京会場ブース参加		東京会場資料参加		大阪会場ブース参加		大阪会場資料参加	
1	いわき明星大学		愛知淑徳大学		追手門学院大学		新潟青陵大学
2	桜美林大学		追手門学院大学		大阪経済大学		愛知淑徳大学
3	大妻女子大学		大分大学		大阪樟蔭女子大学		大分大学
4	金沢工業大学		大阪経済大学		関西大学		大妻女子大学
5	川村学園女子大学		鹿児島純心女子大学		関西福祉科学大学		鹿児島純心女子大学
6	京都文教大学		川崎医療福祉大学		京都学園大学		金沢工業大学
7	国際医療福祉大学		京都学園大学		京都ノートルダム女子大学		川崎医療福祉大学
8	国際基督教大学		京都ノートルダム女子大学		京都光華女子大学		金城学院大学
9	駒澤大学		金城学院大学		京都文教大学		久留米大学
10	埼玉工業大学		久留米大学		甲子園大学		国際基督教大学
11	作新学院大学		甲子園大学		神戸親和女子大学		作新学院大学
12	淑徳大学		相山女学園大学		仁愛大学		白百合女子大学
13	上智大学		中京大学		帝塚山学院大学		相山女学園大学
14	聖徳大学		天理大学		天理大学		大正大学
15	白百合女子大学		日本大学		徳島文理大学		中京大学
16	仁愛大学		人間環境大学		梅花女子大学		帝京平成大学
17	聖心女子大学		広島国際大学		広島国際大学		帝塚山大学
18	専修大学		武庫川女子大学		武庫川女子大学		東亜大学
19	大正大学		立教大学		龍谷大学		東京国際大学
20	帝京平成大学						人間環境大学
21	帝塚山学院大学						文教大学
22	東京国際大学						明星大学
23	東京女子大学						立教大学
24	東京成徳大学						立正大学
25	徳島文理大学						
26	新潟青陵大学						
27	福島学院大学						
28	文教大学						
29	法政大学						
30	明星大学						
31	目白大学						
32	山梨英和大学						
33	立正大学						
34	ルーテル学院大学						

【来場者属性】

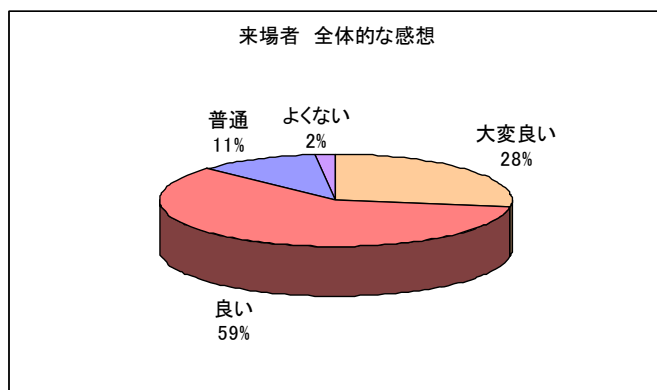


【来場者の感想(一部抜粋)】

- ・ 大塚氏の臨床心理に対する熱い想いは、私のモチベーションの向上に繋がった。今回のこの素晴らしい機会を与えてくださったKALSに心より御礼を申し上げます。
- ・ とても良かったです。特に上里先生のお話がやる気にならせてくれました。
- ・ 臨床心理の大学院の入試概要を中心にたくさんの方が得られてよかった。
- ・ あやふやだったものが確固としたものになり、大変参考になりました。
- ・ スタッフの方がとても親切だったので、困ることなく講演にも相談会にも参加することができました。ありがとうございました。
- ・ 役に立つお話をたくさん聞くことができ、さらにモチベーションが上がりました。
- ・ 興味ある大学の募集要項や願書が今日1日で手に入ったので、大変助かりました。また、臨床心理士に求められるものや、実際の仕事についてなど、今の私に必要なお話がたくさん聞けて、有意義な時間となりました。このような機会

2008/07/31

を作ってください、ありがとうございました。



- ・ 大学院の入試というものが全くわからず、家で資料を取り寄せて読んでいても、ダメだな、難しすぎると、ほとんどあきらめていたのですが、今回、このような予備校があるということを知り、また、いろいろな方の講演を聞かせていただいて、大学院の進路相談会にも参加させていただき、少しでも概要がわかった気がしています。どうもありがとうございました。

【参加大学の感想(一部抜粋)】

- ・ お世話になりました。受験生にとって、一堂に会してくれる機会はありがたいことと思いました。
- ・ 多くの学生の訪問を受け、個別の案件について、対応できて、とてもよかったと思います。
- ・ このような機会にお招きいただき、とてもありがたく思っております。来年もどうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 本学をアピールする機会となりました。受験を決めている学生とも会うことができました。いろいろ様々心配されているところもあり、アドバイスさせていただきました。今後ともよろしくお願いします。
- ・ 受験生に直接接することができ、襟を正される思いでした。今後ともよろしくお願いいたします。

2. 臨床心理フェア 講演レポート

『心理系大学院 科目別攻略法 心理学&英語』

～ 河合塾 KALS 新宿校 山本隆一郎 講師

皆さん、こんにちは。今日は、心理系大学院科目別攻略法ということで、入試の概要と、問題のタイプ、そしてどういった勉強が必要になるのかといったことについて、科目別に説明していきたいと思います。

臨床心理士指定大学院は、第1種、第2種、専門職の3種類がありますが、専門職大学院はちょっと特殊なケースで、修士論文がない代わりに、扱ったケースのまとめのようなかたちでレポートを出すため研究計画書も提出しないケースが多いので、ここでは特に第1種、第2種の指定大学院に絞ってお話しをしていきたいと思います。

第1種、第2種の指定大学院をメインに、専門科目つまり心理学の問題と英語の問題、それぞれの勉強法について、そして皆さんが苦手意識を持っている研究計画書についても触れたいと思います。勉強法というのは人によって合う合わないということもありますから、聞いてみて「なんだ」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、一つ二つでも、役に立つ話ができればと思います。

心理学攻略法

まず心理学の問題のタイプについてお話をしていきます。心理学の問題は、形式としては、大きく分けて4パターンあると思います。

1. 用語説明
2. 論述問題(対比関係を答えるもの)
3. 論述問題(漠然とした考えを求めるもの)
4. データの読み取り

2008/07/31

2008/07/31

分野としては、臨床心理士指定大学院ですから、臨床心理学に関する分野がもちろん多いですが、近接分野として社会心理学、発達心理学といった分野からも出題されます。あと統計学の知識も、これは用語説明の中で問われることが多いですが、問題として出されることがあります。

問題の形式は以上の4タイプですが、どのあたりを意識して勉強したらよいかについて少しお話ししたいと思います。

まず、1点めの用語説明ですが、ポイントとしては、「必要十分の内容をおさえ」「似たような内容を区別」し、「正確に理解」しているかという点が問われます。ここで気をつけてほしいのが、勉強する際、市販されているノウハウ本や心理学の用語キーワード集をそのまま書き写さないということです。というのは、こういった本の中には、結構内容の真偽が怪しいものも含まれていることがあるからなんです。

ですから、用語キーワード集のような市販本は、自分で用語をまとめる際の、あくまでもインデックスとして利用されることをお勧めします。内容をまとめる場合は、学会の先生の本で調べて自分でまとめるというのが鉄則です。

また、＜似たような概念との違いを意識しながらまとめる＞というのも重要なポイントです。よく、「論述問題で何を書いたら○になるの？」といった質問を受けることがありますが、似たような概念との違いを意識して勉強していくとそれがクリアになっていくと思います。

例えば、「PTSDについて論じなさい」といった場合どう書きますか？「強いストレスを受けた結果、へこんじゃった感じ」だけではダメですね。急性ストレス障害のような、“似てるけど違うもの”も盛り込んで書くということが重要だと思います。PTSDについて論じるならPTSDの枠組みをきちんと理解していることが大切ですが、枠組みをきちんと理解するということは、他の概念との違いも把握しているということなんです。ストレスによる障害と一言にいても、PTSDと適応障害では、PTSDは、例えば家族との死別といったひじょうに強いストレスが原因だけれども、適応障害の方はストレスでもちょっと強めの日々直面する問題、といった感じで違いますよね。そのような感じで、ひとつの用語を覚えるときに、他の“似ているけれども違う概念”も合わせて覚えていくと、1つ覚えると複数の用語が覚えられるわけですし、枠組みもしっかりと捉えられるという意味で、お勧めです。

次に、論述問題についてですが、「精神分析と認知行動療法の共通点と相違点を述べよ」とか、パーソナリティの理論で「類型論と特性論の相違について論ぜよ」なんていう問題が出題されたりします。この手の問題に取り組む際のポイントとして、よく僕が授業の中でいっているのが、『インド人とイタリア人の共通点は？』と聞かれた場合、『地球人です』では、インド人とイタリア人すべてを包含しているわけですから、なんの説明にもなっていない、ということなんです。これは極端な例ですけども、急性ストレス障害と適応障害だと、ストレスによる～というところは同じでも、ストレスの程度の捉え方が違うよね、ということなんです。すべてを包含することを書いてダメだということなんです。この辺りが中々理解されていない場合が多いのかなと思います。入試問題はこの辺りがわかりにくいのかなと思いますが、これは、勉強すれば十分対処できる場所です。

さて、論述問題の中の＜漠然とした論述もの＞についてですが、まず、ケースへの見立て・対応を問うもの、これは追手門、ICU、上越教育、白百合などの過去問題にも見られます。さらに、漠然とした論述問題として、京大の問題に、「“見る”という行動を臨床心理学的観点から論じる」という類のものがありませんが、これはちょっと特定の大学院の問題といった方がいいと思いますので、増えているのはケースへの対応問題でしょうね。国立大学の場合、教育学研究科の中に臨床心理専攻が設置されていることが多いですから、＜SC(スクールカウンセラー)の場合の見立て＞を問われるケースが多いようです。解答する際のポイントですが、「いい解答、すばらしい文章を書こう」ということに固執しないということです。ケースについての見立てを書く場合、「自分だったらこんな素晴らしい対処ができるよ」ということではなく、「各心理職に対する正しい知識があるか？」が問われているんです。SCならコンサルテーション的な側面を理解しているかといったことです。こういった問題には用語集だけでは対処できません。解答の際も、画期的な解答を書こうと思わずに、論理的で妥当なものかどうかで判断されますので、そのあたりを考慮しながら書いてください。

また、ケースの場合は、＜倫理的な配慮＞という視点も大切になってきます。画期的な内容を書いているひとほど、

2008/07/31

2008/07/31

倫理的な配慮には欠けているという場合もあります。画期的すぎると、人に迷惑がかかるんじゃないか？みたいな内容になっていたりとかですね。

あとは、難しいところでは、ロールシャッハとか知能検査といった検査の解釈が出題されるところもありますが、これは特定の大学院に限定されていると思いますから、まず過去問をよく見ておくということが大事です。

心理系英語攻略法

臨床心理士指定大学院の英語問題は、「専門領域以外の文章の読解」「専門領域の読解(心理論文 学会誌のアブストラクト)」「英語でのデータの読み取り」といった分類がされると思います。形式としては全訳と要約で、読解力が問われます。

勉強法は、より早く正確に理解できるかという点を中心に、全訳、要約の練習をする。わからない単語があったとしても、文脈から類推できるかということが大切になってきます。高校英語の文法を忘れてしまったという場合は、文法の再復習ももちろん必要ですし、単語力が足りない方は一般的な単語も含めて、増強する必要があります。

具体的な方法としては、

1. 自分の専門分野の論文(国際誌)を読む。
2. 論文のアブストラクトを訳して日本語の要約と照合する。
3. 高校の英文法を復習する。
4. ヒルガードの心理学辞典を用いる。
5. パラグラフリーディングを用いる。

1の「自分の専門分野の国際誌を読む」というのは、計画書の個別指導をしていて思うのですが、そもそも知識の幅が狭いと思うことがよくあるので、それを克服するためにも必要なことだと思います。国内の論文のデータベースは余り整理されていないですが、海外のものはPsychoInfo, Web of Science, ScienceDirect といったデータベースとして整備されていますので、是非活用してみてください。

論文のアブストラクトを訳して日本語の要約と照らし合わせるのは、最良の練習法だと思います。

ヒルガードはKALSの心理系英語の講義の中で使用しているものです。英語版、日本語版があるので勉強しやすいかなと思います。

パラグラフリーディングについては大変有効なスキルなので、ちょっと詳しくお話ししたいと思います。

パラグラフリーディングの有効性

英語を読むときも日本語での論文を書く際にもとても有効なのが、パラグラフリーディングの考え方です。パラグラフリーディングに関しては、本屋さんに行くとかたくさんのが出版されているので、手にとってご覧になるといいと思います。どういうものかという、まず英語と日本語は違うということ、日本語は文末決定性といって、主語がきて、最後まで読まないと述語がわからないけれども、英語は主語のあとすぐに述語が来ますね。英語は言いたいことを先に言うという文化で、それが文章にも反映されているんですね。文章全体の構成の違いをみると、日本語では起承転結といって最後に結論がきますが、英語の場合は結論を先に出します。英語は言いたいことが一番最初!という点は大切で、日本語で論文を書くときにもこれは大事なポイントで、というのはこうしないと長いものを書いていううちに何を書いているかわからなくなってくるからなんですね。また、マーカーを意識した読み方も大切で、例えば、A and Bの場合とA but B の場合を考えると、A and B のようにandで連結されている場合は、Bの内容がわからなくても、Aと似たような内容なんだろうな、少なくともAと正反対の内容ではないな、ということが類推できます。A but Bの場合だと、BはAとは逆の内容だろうなということが類推できます。これは一見当たり前のことですが、知らない単語があるなどして文章が読めなくてもイメージは想像がつくということは重要なスキルだと思います。

2008/07/31

2008/07/31

す。

研究計画書について

出願の際になぜ研究計画書が必要かという、大学院は研究機関だからです。計画書はその人を表現するものです。つまり、

- ・ 倫理的な配慮があるか
- ・ 実現可能性があるか
- ・ ちゃんと自分の専門を読み込んでいるか
- ・ 他者に意志がわかるように伝えられるか

といった点が評価されるわけなんです。面接の材料としても使われます。美辞麗句で飾り立てているけれども何がしたいかわからない薄っぺらいものではダメで、平易な文章で書かれていて、心理学の専門家ではない自分の家族や友達に見せてもわかるようなものがよい計画書だと思います。僕は認知行動療法が専門なんですが、例えば精神分析の分野の最先端の話をされても知らないこともありますから、誰でもわかる内容というのは重要です。また、計画書を5分でプレゼンしてみるということも大切な方法です。

研究計画書を不得意としている人が多いようなので、ちょっと詳しくお話したいと思います。ここで、僕の好きなカール・ポパーという哲学者の言葉を借りて「科学研究の要件」についてお話します。大学院で心理学を専攻するということは調べたい何かがあるわけで、科学的な心理学研究に取り組むということですから、それにはどんな観点が必要かということです。網羅するべき点は以下の点です。

- ・ 公共客観性 public objectivity: 正しく誰でもわかるような方法で行い、結果の真偽を問うこと。
- ・ 追体験可能性 follow up experience: 同じ手続きを踏めば誰でも同じことを体験できること。
- ・ 測定可能性 measurement: 使用する概念が測定できること。
- ・ 操作的定義 operationalism: 測定することが可能なように概念を操作して定義すること。

一般的な学術論文の構成としては、

- ・ 問題と目的
- ・ 方法
- ・ 結果
- ・ 考察

という流れです。計画書の場合は実際に研究は行っていない時点での計画ですので、＜予想される結果＞を書きます。結果として＜本研究の意義＞も盛り込めるといいですね。

順に見ていきますと、まず問題と目的については、国内外を問わず自分の研究テーマの文献を読み込むという作業が必要です。例えば、「うつ病について研究したいです」といっても、認知行動療法なのか精神分析の研究なのかですよね。先行研究を読んで、どんな研究が足りないのかを考えます。あまり色々なものを読むとわからなくなったりすることもありますから、まあ一番簡単なのは、最新の関連論文を読んで考察を読む、そこから、自分のテーマにつなげていく、という方法です。体裁の整った計画書は意外とたやすくかけるものなんです。自分の研究テーマに関する文献を読んで、どんな研究が足りないのかを考える、仮説を立てるという流れですね。論理の流れ図(フローチャート)を作成することも重要です。時間がなくなってくると焦ってしまい、方法から入ろうとしがちですが、正攻法でいったほうが結局は早いと思います。

方法というのは、対象者、研究時期・手続き・データ解析、研究で使用した材料など。結果は、解析結果をそのまま書きます。紀要などを見ていると、結果と考察が混在しているものもありますが、あくまでも研究の結果に関してニュートラルに書くということがポイントです。考察とは、成果、限界、展望について。つまり仮説が検証されたのであれば想定意義はなにか、検証されなかったのであればそれはなぜなのか、他に要因があるのか、といった点もからめます。

2008/07/31

2008/07/31

引用文献の書き方については、日本心理学界のホームページに論文の執筆要項が載っていますので、参考にされるとよいのではないのでしょうか。

研究計画書の構成についてまとめると、以下のとおりになります。

- ・ 問題と目的
- ・ 方法
- ・ 予想される結果(仮説)
- ・ 意義
- ・ 引用文献

計画書を書くための注意ポイントとして、「とにかく論文を読む」「批判的に読む」「不確かな文献を根拠としない」という点も挙げたいと思います。文献の確実性の度合いとしては、学会誌＞商業誌＞本＞大学紀要＞サイト の順ではないのでしょうか。

面接について

もう時間がなくなってしまったのでさっくり触れますが、最後に面接についてです。面接は研究計画書を元に行われます。＜計画書を見ないでも空でプレゼンできるように＞しておいた方がいいと思います。＜商品売る感覚で＞＜想定問答を作る＞という点も強調したい。よく授業で言うんですが、保険の外交員になったつもりで、といっているんですが。保険のパンフを見たとき、「がん保険っていうけど、どんながんでも通用するの？」とか色々疑問が出てくると思います。そのような考えられる質問に対して答えられる用意をしておくということです。また、＜正直に答える＞という点も覚えておいてください。うろ覚えのことを言っても、相手は専門家なのですぐ見破られてしまいます。

以上、大急ぎでお話ししてきましたが、少しでも今後の受験のお役に立てれば幸いです。皆さんが素敵な臨床心理士になれることを応援しています。ありがとうございました。

2008/07/31